

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(やすらぎ・いたわり)

「誕生学協会 ガールズエンパワメントプロジェクト」事業

10代女子の心と体を守り生きる力を喚起する 出張授業を全国の学校で展開

命と性に関するライフスキル教育の普及活動を行っている「誕生学協会」では、昨年から10代の女子に向けて「ガールズエンパワメントプロジェクト」を開始した。社会問題化する若年妊娠や望まない中絶、デートDV(交際相手から受ける暴力)、などを予防啓発するための授業を全国の中学・高校に無償で届けている。



デートDVや性被害などもしもの時に助けとなる、全国の相談窓口を紹介した実践的な情報冊子を作成

命の誕生の素晴らしさを伝え 自尊感情を育むプログラム

「公益社団法人誕生学協会」では10年以上にわたり、妊娠出産の仕組みや命の大切さを伝える「誕生学」の出張授業を展開している。現在は、一般の人から助産師や看護師など専門職の人まで、協会が認定した全国の約300人の講師会員が、誕生学アドバイザーとして、幼稚園から大学で子どもたちの成長過程に合わせたプログラムを行っている。

性教育のあり方については様々な立場や考え方があるが、誕生学は、解剖学や避妊教育が中心の従来の性教育とは異なり、自分が誕生してきた奇跡や生まれてくる力を再認識し、自尊感情を育むことを目的としている。

「赤ちゃんはお腹の中にいる時から指しゃぶりをしてお

ぱいを飲む練習をしていることや、生まれる時には骨盤や出口の骨の形に合わせて自分で体を回旋することなど、誕生するために自分たちがしてきたことを伝えて、子どもたちが『命ってすごい』『自分は尊い存在なんだ』と実感する機会にしています。生まれてきたことへの肯定感が高まると、自分や他人のことを大切にしようという意識が生まれます」。誕生学の生みの親である同協会代表理事の大葉ナナコさんはそう話す。

「ガールズエンパワメントプロジェクト」では、こうした誕生学に加え、10代の妊娠や中絶、デートDV(交際相手から受ける暴力)の実態や予防について伝える特別ガールズプログラムを実施。併せて、もしもの時の助けとなる全国の相談窓口を紹介した実践的な情報冊子を制作し、授業を受けた女子生徒に配布している。

10代の望まぬ妊娠、デートDV 「助けて」と言える力を

本プロジェクトをスタートさせた背景には、10代の女子を取り巻く深刻な状況がある。厚生労働省の2014年の統計によると、毎日約80人の10代が妊娠し、そのうち35人が出産、45人が中絶をしている。その背景には、デートDVによる性被害や望まない妊娠の増加と低年齢化があり、しかも誰にも相談できずに悩んでいる子が多いのが現状だ。また、20代女性の死亡原因の上位に自殺や子宮頸がんが入るといふ現実もあり、10代のうちから婦人科系疾患への知識を持ち、心と体のセルフケアに努めていくことが求められている。

実際に「避妊に協力しないのはデートDVといえる」という認識のない少女が多いことから、まず自分が尊い存在であることに気付かせ、自分で自分を守り、生き方を自己

決定する力を身に付けさせることが必要だという。「『助けて』と声を上げることもそのひとつです。」と大葉さん。未来の母である少女たちには、キャリアプランも見据えて、「しまった」ではなく「良かった」と思える妊娠・出産を迎えて欲しいとエールを送る。

今後、2018年までに1,000校、30万人への授業の実施を目指す。全国の女子中学、高校が中心であるが、男子生徒にも受けさせたいという共学校からの依頼もきており男女共学版も実施した。さらに女子少年院などでも実施を予定しているという。

授業を受けた女子生徒からは、「自分が生まれてきた意味を初めて考えました」「これからは嫌なことは嫌と言います」「命というすごいチャンスももらっているので大事にしようと思う」など、前向きな声が届いているという。



幼稚園から大学で出張授業を展開



男子生徒にも受けさせたいという共学校からの依頼も増えている

助成団体: 公益社団法人 誕生学協会

<http://www.tanjo.org>



未来の母である少女たちを守り育てるために

少子化が進行するこの国の未来の母は、今の少女たちです。彼女たちが抱える問題に目を向け、守り導くことは、未来への投資だと思っています。AJOSCには理解と勇気をいただいたことを心より感謝いたします。おかげさまで教育委員会や学校の先生方にも好評をいただいています。皆さまの思いを受け、心して命の授業を届けてまいります。

公益社団法人 誕生学協会
代表理事 大葉ナナコさん